

W13b IRTS 搭載中間赤外分光器 MIRS の絶対較正

石原 大助、尾中 敬、Kin-Wing Chan、田辺 俊彦 (東大理)、山村一誠 (宇宙研)

MIRS は IRTS(Infrared Telescope in Space) に搭載されていた中間赤外分光器であり、 $4.6 \mu\text{m}$ から $11.6 \mu\text{m}$ までの波長域を分解能約 $0.3 \mu\text{m}$ 、32 個の検出器でカバーした。

今回の較正では、各チャンネルの感度特性を光線追跡計算により求め、前回の約 2 倍の 26 個の標準星と Ceres の Template に適用して絶対 Flux[Jy] を見積もった。これを観測された信号 [Voltage] と比較し Jy/V を 3.5 % 以下で求めることができた。MIRS の観測データについても、各 scan を取り入れた上、抽出方法、Background の見積もりを改善した。Point Source が diaphragm 中のどこを横切ったかによる Flux の変化も検証したが、実際の観測のばらつきに比べて十分小さかったため、最終的な較正では考慮しなかった。今回の較正に基づいた MIRS のスペクトルと IRAS/LRS のデータとの比較を行い、MIRS の較正の精度の評価および変光の有無についての検討を行った結果も報告する。